

証券コード：5491

株主便り

第118期
2025年3月期



毎年3月・9月発行

Contents

P1 トップメッセージ

P3 トピックス

P5 業績ハイライト

P7 会社概要・株主メモ



人と地球にやさしい新たな価値を共創する
Multi & Hybrid Material 企業

“NIPPON KINZOKU 2030”への新たなステージが始まる。
進化する社会のニーズを見据え、未来を拓く日本金属へ。



日本金属株式会社

トップメッセージ



取締役社長 下川 康志

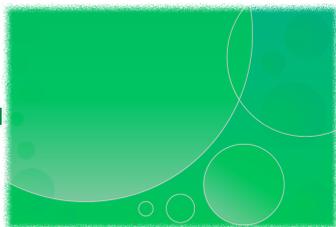
株主の皆様には、日頃より格別なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。「株主便り2025年3月号」をご高覧いただくにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

2025年3月期における 第3四半期までの実績と通期の業績予想について

2025年3月期第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比1,058百万円(2.8%)増収の38,978百万円となりました。損益面につきましては、営業損益は191百万円の損失(前年同期は1,136百万円の損失)、経常損益は324百万円の損失(前年同期は1,170百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純損益は382百万円の損失(前年同期は1,964百万円の利益)となりました。前年同期の親会社株主に帰属する四半期純損益には、特別利益として本社移転に伴う固定資産の譲渡による固定資産売却益4,232百万円が含まれております。2025年2月に開示しました2025年3月期連結業績予想は、売上高523億円、営業損失4億5千万円、経常損失6億円、当期利益7億円としており、当期利益には、2025年2月末に売却した社員寮跡地の売却益を含んでおります。

今期の経営環境と今後の見通しについて

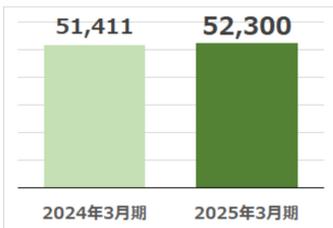
主力のステンレス鋼帯は、販売比率の高い中国市場において、中国現地メーカー製EV・PHVの急増による当社主力ユーザーである日本車及び欧米車の販売不振の影響で、自動車向けステンレス・モールド材の販売数量低



2025年3月期の連結業績予想

連結売上高

単位：百万円



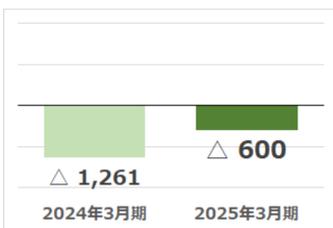
連結営業損益

単位：百万円



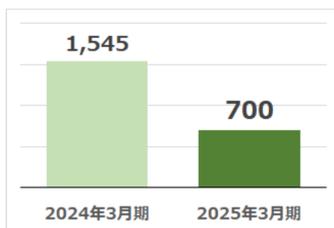
連結経常損益

単位：百万円



連結当期純利益

単位：百万円



迷が続いています。欧州や北米では、EV普及が一段落し、HVが見直されていますが、中国では、今後も中国製新エネ車が高いシェアを維持し、中国向けステンレス鋼帯の数量回復は難しい見通しです。一方、自動車向けステンレス・モール材では、当社の高収益差別化製品である、黒加飾ステンレス材「ファインブラック®」やマット調ステンレス材「PW」が、市場で好評であり、採用車種が拡大しており、2025年後半以降、増量する見通しです。また、文具用ファインパイプやコイン電池用ステンレスなど、在庫調整が進展し、需要が回復してきているほか、生成AI普及に伴うデータセンター用HDD部品向けステンレス鋼帯や、電力需要増に対応した電力インフラ向け極薄電磁鋼帯などの需要が増加しています。その他、高度医療や計測器向け内面高精度管などのファインパイプ、次世代電池や水素など再生エネルギー関連向けステンレス箔や異形製品「ファインプロファイル®」などの、高収益差別化製品の市場開拓に注力しています。

前期、今期と厳しい経営環境が続きますが、第11次経営計画の柱である新事業アイテムを中心とした高収益差別化製品の拡大を推進しており、来期2025年度以降、売上高、収益に大きく寄与する見通しです。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

トピックス

「STAINLESS STEEL WORLD ASIA 2024」に出展しました。

当社は、2024年9月11日(水)～12日(木)にシンガポール共和国のSingapore EXPOにて開催された展示会「STAINLESS STEEL WORLD ASIA 2024」に、東京ステンレス研磨興業株式会社（本社：東京都墨田区、代表取締役社長 日下部繁）と合同にて出展いたしました。



「STAINLESS STEEL WORLD ASIA」は、各国の最先端素材技術が出展される展示会で、当社としては初めての出展となりました。

展示ブースでは当社の高機能なステンレス鋼や高精度精密管、異形圧延製品（ファインプロファイル®）、マグネシウム合金圧延材など、カーボンニュートラルを実現する製品を用途例と合わせて展示いたしました。

東京ステンレス研磨興業株式会社との共同出展ブース

当社では同じく2024年9月に中国・上海にて開催された展示会「第18回 Medtec China」にも出展するなど、国内外を問わず各地の展示会への出展を行っております。今後も当社および当社製品の認知度向上を図るべく、アピールの強化に取り組んでまいります。



展示製品の一例

試作対応・受託生産事業を強化し、ビジネスチャンス拡大を目指します。

2025年4月1日(火)、当社はお客様との新しい共創を目指し、新たに試作・サンプル・委託加工を請け負う専門部署『プロダクションプロセス・サポート部』を新設します。当社ホームページ上に『試作・委託加工サポート受付』を開設し、当社取り扱い素材や製造範囲に限らず、当社のネットワークを通じてあらゆる開発・試作ニーズにお応えしてまいります。

試作・委託加工サポート受付

日本金属の設備・技術・機能・ネットワークを活用し、あらゆる開発・試作ニーズにお応えします。

日本金属はお客様との新しい共創を目指し、試作・サンプル・委託加工を請け負う専門部署『プロダクションプロセス・サポート部』を2025年4月1日に新設、活動



●サービスの特長

1. 専門部署が多様なご相談に対応

研究開発施設と長年の加工技術の蓄積を基に、お客様と一緒に様々な問題解決を図ります。

2. 開発段階から試作・量産までサポート

お客様のアイデア発想・開発検討の段階から、試作～量産まで、一貫して包括的にサポートいたします。

3. 委託加工や複雑・特殊な加工も可能

日本金属の高精度・高機能な設備群と、幅広い提携ネットワークを通じて、素材圧延や熱処理、各種表面処理、異形圧延、ロールフォーミング、複合成形、造管(溶接引抜パイプ)、精密プレスほか、様々な委託加工にも応じます。

4. 試作品の迅速納入、少量サンプルもスピーディに対応

数個・数kgのサンプルを最短納期で対応し、ステンレス鋼帯の小ロット在庫の他、サンプル在庫も拡充します。

詳細はこちら(試作・委託加工サポート受付)

<https://www.nipponkinzoku.co.jp/pp-support>



お問い合わせ先(2025年4月1日以降)：プロダクションプロセス・サポート部

TEL：03-5765-8113 <https://www.nipponkinzoku.co.jp/contact-pp-support>

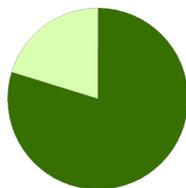


第 1 1 8 期 第 3 四 半 期 業 績 ハ イ ラ イ ト

◆みがき帯鋼事業

売上高比率

79.8%



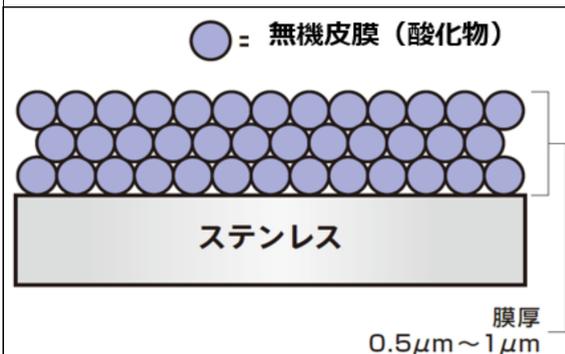
主力製品である自動車関連用途は、国内向けでは自動車メーカーの認証問題の影響、海外向けでは中国での景気低迷の継続や当社製品シェアの高い日本車の非EV車の販売が停滞した影響で販売数量の減少が継続した一方で、サーバー用ハードディスク部品に加え、ゲーム機や家電などに使用されるコイン電池などの電子部品関連の受注が回復した結果、当第3四半期連結累計期間のみがき帯鋼事業の売上高は、前年同期比904百万円（3.0%）増収の31,106百万円、営業損益は427百万円の利益（前年同期は687百万円の損失）となりました。

絶縁ステンレス鋼 FI（Fine Insulation）仕上を開発

当社は、高い表面絶縁抵抗を有するステンレス鋼「FI（Fine Insulation）仕上」を開発し、電子機器や二次電池用途での今後の販売拡大を目指しています。

近年、スマートフォンやゲーム機などに代表される電子機器においては小型化、低背化が顕著になっています。これまでは導通部に触れる箇所へ絶縁テープや樹脂との複合体を設けることにより、短絡を回避する対策が取られてきましたが、コスト高や小型化、低背化の妨げとなっていました。

そうした課題を背景に、当社はステンレス表面に絶縁抵抗を有する無機皮膜（膜厚1 μm程度）をプレコート（イメージ図参照）した、FI仕上を独自開発しました。FI仕上は後加工で表面処理を実施する必要がないため、省スペース化にも対応した製品で、お客様の工程省略や生産性向上、コスト低減などにも貢献します。



また、FI仕上は、お客様での絶縁処理の必要がなくなることから環境負荷低減が可能となるため、当社独自の基準で認定する環境配慮製品「エコプロダクト」でもあり、拡販を通じてカーボンニュートラルの実現にも貢献してまいります。

詳細はこちら（プレスリリース）

<https://www.nipponkinzoku.co.jp/info/news-release/21783.html>

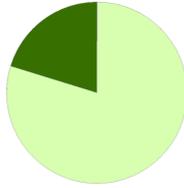


FI仕上のイメージ図

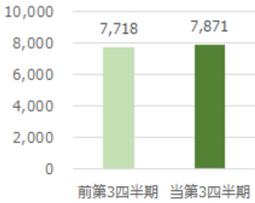
◆加工品事業

売上高比率

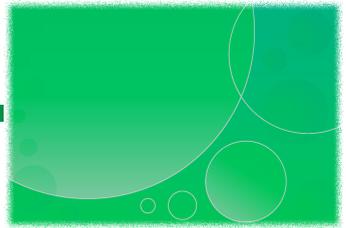
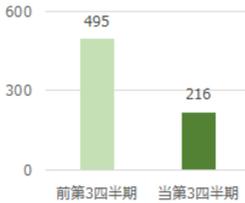
20.2%



売上高



営業利益



福 島工場取扱製品では、自動車駆動部品用高精度異形鋼製品が減少する一方、岐阜工場取扱製品では、内面高精度管が国内外で販売拡大した結果、当第3四半期連結累計期間の加工品事業の売上高は、前年同期比153百万円（2.0%）増収の7,871百万円、営業利益は前年同期比278百万円（56.3%）減益の216百万円となりました。

半導体製造装置のマスフローコントローラーにファインパイプが採用

当 社が製造・販売を行うファインパイプ（溶接引抜管）が海外メーカーの半導体製造装置のマスフローコントローラー用バイパスチューブに採用されました。

半導体製造装置などに欠かせないマスフローコントローラー（mass flow controller、流量制御機器）には再現性と精度が求められ、使用されるパイプは内外径の精度や面粗さ、端面品質など数多くの重要仕様を満足させる必要があるほか、品質の安定性も重要です。

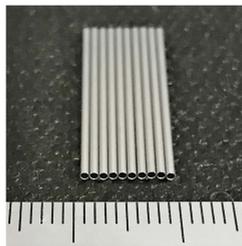
当社では20年以上にわたりマスフローコントローラー用パイプの開発に技術研究所と岐阜工場で行い、近年では内面研磨工程を削減した内面高精度小径厚肉管を開発しました。これらの知見と経験をもとに製造工程や

製造条件、金型や副資材を一から見直し、お客様の仕様を満足するファインパイプの安定供給を実現しました。

詳細はこちら（プレスリリース）
<https://www.nipponkinzoku.co.jp/info/news-release/22419.html>



マスフローコントローラー概略図



採用されたファインパイプの一例
（※本数は関係ありません）



会社概要・株主メモ

◆会社概要 (2024年12月31日現在)

創 業 1930年11月10日
 設 立 1939年12月2日
 本店所在地 東京都板橋区舟渡四丁目10番1号
 本社事務所 東京都港区芝五丁目29番11号 G-BASE田町10・11階
 電話 (03) 5765 - 8111 (大代表)
 資 本 金 68億5千7百万円
 連結従業員数 841名
 当社従業員数 568名

◆株主メモ

事業年度 毎年4月1日から
 翌年3月31日まで
 の1年
 定時株主総会 毎年6月
 株主名簿管理人 東京都千代田区
 丸の内一丁目3番3号
 みずほ信託銀行
 株式会社

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主 配当金受取方法の 変更等)	お取引の証券会社等 になります。	当社の特別口座の口座管理機関みずほ信託銀行へお問い合わせ願 います。 〒168-8507東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
未払配当金の お支払	右記みずほ信託銀行 までお問い合わせ願 います。	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
株主総会資料の電 子提供制度(書面 交付請求)につい てのお問い合わせ	お取引の証券会社ま たは右記みずほ信託 銀行までお問い合わせ せ願います。	ホームページ https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html 電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
ご注意		特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。 証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく 必要があります。



単元株式数 100株
 公告方法 当社のホームページ (<https://www.nipponkinzoku.co.jp>) に掲載します。ただし、
 事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合
 は、日本経済新聞に掲載します。
 上場取引所 東京証券取引所スタンダード市場